

ワーカーズコープの自立就労支援基本姿勢

1. 目指すべき方向性

地域支え合いの仕組みづくり 支援対象者を仲間とするための3つの協同の推進

支援対象者は今を共に生きる生活者

- ◆ 自立とは何か？ . . . その人自身が物事を自己決定できること
- ◆ 自立支援とは何か？ . . . 単に生活保護を脱するというのではなく、生活保護制度を含む様々な社会資源や人的資源を活用しながら実現できる自立の形を模索し、主体者となるよう支えるには、答えを見せるのではなく、共に考え悩むこと

しかし... 同様の立場に立ったことのない支援員がほとんど（地域の人も同様）

- ◆ 自分にできることが、対象者にもできるとは限らない
- ◆ 長所（ストレングス）を見つけ、伸ばすかわり
- ◆ 平等の意味 置かれている状況は皆異なるからこそ、型にははめられない
- ◆ 完璧な人間はいないからこそ、共に生きる生活者として対象者への理解を高める
完璧を求めないことは支援員自身の前向きさにもつながる（燃え尽き防止）
- ◆ 共感・シンクロする部分を探す
尊重 認め合い 支え合い エンパワメント
一人で全てをやらずに人を巻き込む力、地域・企業を仲間にする力
多様なかわりから、主体性やその能力を引き出す
- ◆ 排除しない覚悟 誰ひとり取り残さない地域社会づくり

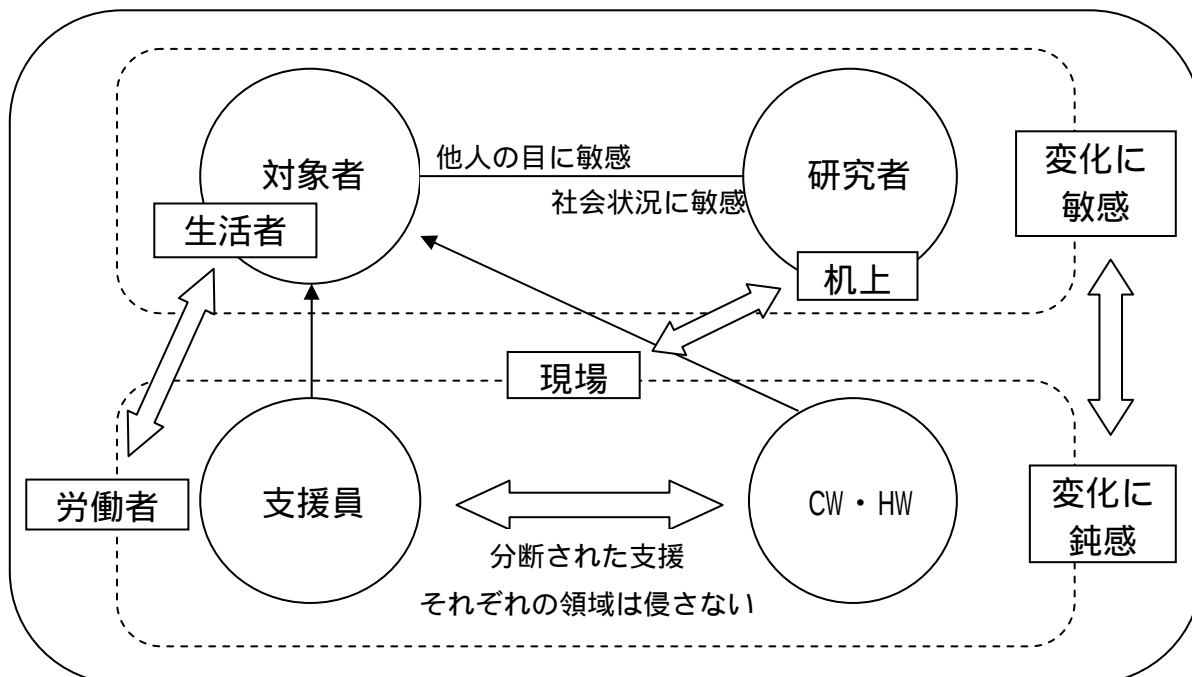
社会変革・労働政策への提言

- ◆ 多様な働き方が広がっているのではなく、働かされ方が広がっている現状
ズタズタの労働市場を輝かせる協同労働の価値 ~ 労働者の主体性と協同の力
派遣業の矛盾 失業の再生産
- ◆ 豊かさの意味 経済成長
- ◆ 国自治体の言いなり 地域に必要な仕事おこしを支援対象者・地域と共に
委託・指定管理ではなく自分たちの運命を自分たちで決められる自前の仕事おこし
自分たちだけのための就労の場づくりで終わらないこと
- ◆ 公的訓練就労事業の提案から社会的起業 社会の中で社会を機能させる
- ◆ 震災復興へ不可欠となる仕事おこしと就労支援 ワーカーズコープの提案
- ◆ 仕事おこしを FEC 自給圏の創造と結ぶ

2. 支援のあり方

- ◆ 支援する側される側の壁をいかに越えられるか
同じ生活者として寄り添う 支援対象者の変化、社会の変化に敏感であること
支援対象者が支援されっぱなしで終わらない循環型の支援
- ◆ 弱さを前提の支え合い、答えは無く多様だからこそ関係性が全て
個別化・分断化はスキルアップを生まない（伴走・チーム・地域支援）
- ◆ 困難に対し、排除ではない解決
全てのことに原因があり取り除くことができる訳ではないからこそ、共に考え地域で支える
社会的排除に抗する覚悟
- ◆ CW、HW 等関係機関との連携
協力関係、情報共有、お互いの役割の理解
CW、HW で担いきれない部分のカバー（公務員ではできない仕事の価値）
- ◆ 仕事おこしへアイデアの出し合い
仲間同士、対象者、地域で考えを出し合えることができれば、スーパーな人材は不要
具体化へコーディネートする役割
- ◆ 研究者と協力し、社会状況を理解し政策提言へ
実践をまとめ、自立就労支援の価値を発信 新たな展開の模索
意欲レベルの変化の評価方法を模索
公的訓練就労事業から仕事おこしの流れの確立

陥りやすい状況 ～ 生まれやすいギャップ



よい仕事を高める ～ ギャップを埋める作業

